

乃木希典と靖国神社



しくみ

- 靖国神社 3.09km - 乃木神社 - 統一教会 3.09km
- // - 宗教法人惟神会 3.09km

乃木神社

乃木希典将軍と乃木静子夫人を祀る。大正2年(1913年)、東京市長だった阪谷芳郎が中心となって、乃木希典を敬慕する人々による中央乃木会を設立し、大正8年(1919年)、当社の創建を申請・許可され、大正12年(1923年)11月1日に鎮座祭が行われた。設計は大江新太郎が手掛けた。昭和20年5月の東京大空襲で焼失したが、新太郎の息子・大江宏の設計で昭和37年に復興した。昭和58年(1983年)には宏の長男・大江新と三男・昭によるコンクリート造の宝物殿が建てられ、焼け残った新太郎設計の手水舎と合わせて親子3代に渡る建築家の作品が一堂に会す。



乃木 希典 (のぎ まれすけ、嘉永2年11月11日(1849年12月25日) - 1912年(大正元年)9月13日)は、日本の武士(長府藩士)、軍人、教育者。日露戦争における旅順攻囲戦の指揮や、明治天皇の後を慕って殉死したことで国際的にも著名である。大正元年(1912年)9月13日、乃木は明治天皇大葬が行われた日の午後8時ころ、妻・静子とともに自刃して亡くなった。享年64(満62歳)没。乃木の死去を受け、読売新聞のコラム「銀座より」では、乃木神社建立、乃木邸の保存、「新坂」の「乃木坂」への改称などを希望するとの意見が示された。その後、京都府、山口県、栃木県、東京都、北海道など、日本の各地に乃木を祀った乃木神社が建立された。

東京都港区赤坂8丁目1-1

靖国神社

祭神は、幕末から明治維新にかけて功のあった志士に始まり、1853年(嘉永6年)のペリー来航(所謂「黒船来航」)以降の日本の国内外の事変・戦争等、国事に殉じた軍人、軍属等の戦没者を「英霊」と称して祀り、その柱数(柱(はしら)は神を数える単位)は2004年(平成16年)10月17日現在で計246万6532柱にも及ぶ。

戊辰戦争終戦後の1868年(慶応4年)旧暦6月2日に、東征大総督有栖川宮熾仁親王が戦没した官軍(朝廷方)将校の招魂祭を江戸城西丸広間において斎行したり、同年旧暦5月10日に太政官布告で京都

東山（現京都市東山区）に戦死者を祀ることが命ぜられたり（現京都霊山護国神社）、同旧暦7月10・11の両日には京都の河東操錬場において神祇官による1853年（嘉永6年）以降の殉国者を慰霊する祭典が行われる等、幕末維新期の戦没者を慰霊、顕彰する動きが活発になり、そのための施設である招魂社創立の動きも各地で起きた。それらを背景に大村益次郎が東京に招魂社を創建することを献策すると、明治天皇の勅許を受けて1869年（明治2年）旧暦6月12日に現社地での招魂社創建が決定され、同月29日（新暦8月6日）に五辻安仲が勅使として差遣され、時の軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王を祭主に戊辰の戦没者3,588柱を合祀鎮祭、「東京招魂社」として創建された。ただし、創祀時は未だ仮神殿の状態であり、本殿が竣工したのは1872年（明治5年）であった。



1865年、長州藩が奇兵隊の死者を祀るために建立した桜山招魂社が、靖国神社の起源である。その後、禁門の変、戊辰戦争などで戦死した長州軍の兵を合祀。明治維新後、明治天皇の上京にともない、天皇の錦の御旗が与えられることで、官幣の神社として靖国神社が設立された。

以上の経緯を踏まえると、靖国神社は、明治維新以降、実権を握った長州閥の意向が色濃く反映された神社だと言える。事実、会津藩家老を先祖に持つ右翼の大物・田中清玄は、靖国神社を「長州藩の守り神にすぎないもの」と切り捨てたという。

東北地方は、仙台第二師団のガ島玉砕、第36師団（雪部隊）のニューギニア玉砕はじめ、戦没者の多い地域だが、「靖国神社に参拝すべきだ」とする意見には異を唱える人が多い。「朝敵は弔わず」、これは賊軍に対する明治政府の一貫した姿勢だった。東北(奥羽列藩同盟)の犠牲者をはじめ、彰義隊、西南の役の西郷隆盛側などは、靖国はもちろん、日本各地の招魂社（護国神社）にも祀ることはなかった。

そして、薩長中心による富国強兵政策の一貫としての軍事強化推進が、その後の日清・日露・大東亜戦争につながったと見るのが自然だし、靖国はその精神的支柱として存在した。今なお、“明治政府（官軍側）は素晴らしかったと絶対視”し、賊軍とされた地域のインフラ整備の後回しなど、東北蔑視政策が続くかぎり、多くの東北人が心から靖国神社を参拝する気持ちにはならないだろう。

そこには、薩長が天皇を人質同然にした当時の、「天皇陛下＝靖国神社だ。文句あるか」という、天皇の威光を利用するだけ利用した空気が流れている。それに比して、京都守護職を務めた会津藩主・松平保容は、孝明天皇から辰翰を賜り、正に官軍だった。明治26年12月5日松平保容公死後、辰翰の事実を知った明治政府は、この内容が公になれば、自分達が嘘で固めた歴史観が根底から覆えるとあわてた。

そして、明治政府は密かに大金で譲渡するように圧力をかけたが、会津藩・松平家はこれを頑強に拒否した。何度でも繰り返すが会津藩側が官軍、薩長土肥(明治政府)側が賊軍だったのだ。

それに薩長や岩倉具視らの戦略による錦旗の偽造や、孝明天皇の毒殺説も有力だ。これが薩長は「偽（にせ）官軍」と言われる理由であり、偽（にせ）官軍が天皇陛下の威光を利用するために作ったのが「靖国神社」という図式になる。

日本を再び戦争をする国家にさせようと企む人達にとっては「国のために命を捨てさせる」ための装置としてこの神社は象徴的な大きな意味をもつものなのでしょう。

<http://z-shibuya.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-e1bb.html>

千代田区九段北3丁目1-1

世界平和統一家庭連合本部

朝鮮半島のキリスト教の土壌から発生した新宗教団体である。文鮮明（1920年-2012年）によって、1954年に韓国で創設された。韓国の多くの少数派宗教団体と異なり、朝鮮半島を超えて世界中に普及したという特異性を持つ。旧名称は、世界基督教統一神霊協会である。日本では



一般的に旧略称の統一教会と呼ばれる。「全キリスト教会を霊的に統合させる協会」を意味する。1964年に日本で宗教法人の認証を得た。統一教会旗下には、勝共連合という反共政治団体、純潔教育やジェンダーフリー・バッシングを行う市民運動体、統一教会信者向けの商品を製造販売する会社、信者が物販する商品を卸す会社、世界日報やワシントンタイムズという新聞社や信者向け出版を行う光言社という出版社、平和運動や社会事業に市民を勧誘するNGO・NPO組織など、様々な組織がある。統一教会の宣教活動には社会の規範意識や法律と軋轢のある部分が多く、宗教学者の櫻井義秀は、「教説の創唱性、教祖のカリスマ、教団内婚制という点だけを取り上げても、宗教学的には新宗教と定義して構わないし、再臨主を称する教祖を信奉する少数者の集団という意味では、宗教社会的にはカルトと類型化される」述べている。

東京都渋谷区松濤1丁目1-2

惟神会

宗教法人。八意（やごころ）思兼（おもいかね）大神を本部に祭り、敬祖崇神を信条とする。ルーツは大本教。月刊誌「国教」を発行している。

東京都渋谷区桜丘町30-11



備考

統一教会が乃木神社を介して靖国神社と繋がる。大本教をルーツとする惟神会も同距離。英雄「陸の乃木 海の東郷」と謳われていた。陸軍は大和族（天孫）、海軍は出雲族らしいので、この二人がどうつながっているのか、つながらないのかを次に調べてみた。

乃木神社と東郷神社



■ 乃木神社 - 東郷神社 - 高円宮邸 2.02km

■ // - 妙道会教団 2.02km

(参考)

■ // - 永心寺

■ // - クロアチア共和国大使館

■ - ベネズエラ大使館

東郷神社

東郷平八郎が昭和9年(1934年)5月30日に亡くなると、全国から海軍省に東郷を顕彰する神社の創建の要望と献金が相次いだ。当時の海軍大臣大角岑生が財団法人東郷元帥記念会を設立し、寄せられた献金によって神社の創建が計画された。昭和12年(1937年)9月に地鎮祭、昭和15年(1940年)5月27日(海軍記念日)に御鎮座祭が行なわれ、同時に府社に列格した。昭和20年(1945年)には別格官幣社への昇格がほぼ決まりかけていたが、東京大空襲によって社殿が焼失し、昇格は断念された。戦後になって復興の機運が高まり、昭和33年(1958年)に奉賛会が結成され、昭和39年(1964年)に社殿が完成した。平成元年(1989年)2月3日には東郷神社爆破事件が起きている。

東郷 平八郎(弘化4年12月22日(1848年1月27日) - 昭和9年(1934年)5月30日)は、日本の幕末から明治時代の薩摩藩士、軍人。階級は元帥海軍大将。日清戦争では「浪速」艦長として高陞号事件に対処。日露戦争では連合艦隊司令長官として旗艦「三笠」で指揮を執り、「陸の乃木 海の東郷」「アドミラル・トーゴー」「東洋のネルソン」と英雄視された。各地の東郷神社に名を残す。

死後東京都渋谷区と福岡県宗像郡津屋崎町(現福津市)に「東郷神社」が建立され神として祭られた。ただし東郷自身は生前乃木神社建立の時、(陸軍に対抗するために)将来自身を祭る神社の設立される計画を聞いて驚き、「やめてほしい」と強く懇願したが、願いは聞き入れられず結局神社は建立されている。墓所も生前、母親の益子の眠る青山墓地への埋葬を希望したがこれも聞き入れられず多磨霊園に埋葬されることとなった。また銅像が長崎県佐世保市の旧海軍墓地東公園と鹿児島県鹿児島



市の多賀山公園にある。東京都府中市には別荘地に建立された東郷寺があり、桜の名所である。東京都渋谷区神宮前1丁目1-5-3

高円宮邸

高円宮家の次女、典子さまと出雲大社の神職、千家国麿氏が結婚している。皇室典範の規定により、典子さまは皇族の地位を離れた。千家氏は島根県出雲市出身で、出雲大社の宮司を務める千家尊祐氏の長男。1996年、国学院大文学部神道学科を卒業後、乃木神社（東京・港）や石清水八幡宮（京都府八幡市）を経て、現在は出雲大社で宮司を補佐する禰宜（ねぎ）を務めている。典子さまは、2002年11月に急逝された高円宮さまの次女として88年に誕生。11年に学習院大文学部心理学科を卒業後は皇室行事への出席などの公務をこなされた。宮内庁によると、お二人は07年に典子さまが久子さまとともに出雲大社を参拝された際に初めて対面。その後交際を深め、結婚の意思を固められたという。女性皇族が結婚で皇籍を離れるのは05年に結婚した天皇家の長女、黒田清子さん以来。天皇のひ孫以遠の未婚の女性皇族を指す「女王」の結婚は戦後初めて。

千家国麿氏の両親はどちらも旧華族・男爵家。弟は乃木神社神職。

東京都港区赤坂



妙道会教団

西田無学が提唱した在家による法華経の先祖供養という、霊友会の教義を継承しつつ、法華経に基づく夫婦両家の先祖供養を提唱している。朝夕には回向のために読経供養を行う。『法華経』を中心に『回向要品』、『三大誓願』、『聖訓』を定めている。

昭和10年5月、佐原忠次郎は自身の子供が虚弱であることを悩み、法事で呼んだ僧侶が所用で来られなかったことなどから、「先祖供養は自分でするもの」という霊友会の教義に賛同して入信。地域で信望の厚かった佐原夫妻の入会を知り、多くの知人も入信した。昭和12年1月、霊友会の第11支部長に就任。その後、商売を廃業し信仰一筋に入る。昭和14年敷地内にあった工場を講堂に改築、関西における霊友会の最初の道場を築く。1951年（昭和26年）の霊友会事件から多くの支部が独立して教団設立することになるが、佐原夫妻も同年2月4日に同会を離脱・独立し、妙道会教団と公称して大阪市南区北桃谷町に本部を開設した。昭和31年2月には本部を天王寺区に移転、昭和33年3月には「日の御本尊」を開頭した。昭和50年9月に滋賀県の琵琶湖畔に「大宝塔」を涌出し「聖地」びらきを行った。

東京都渋谷区西原1丁目3-7



備考

思ったより繋がりを探せなかった。やはり、天孫族と出雲族のしくみは融合しづらいのだろうか。高円宮の次女が、乃木神社神職を経験した出雲大社神職の千家氏と結婚したが、もともと先祖はだぶっていた。千家氏の弟も乃木神社神職。なにかしら乃木神社と繋がりがあろう。そしてここにも妙道会という霊友会系の新興宗教組織が加わっている。大使館はなにかと度々繋がる。記載しなかったものが多いが、考えてみると国賓が滞在する建物。気を引くための重要なポイントとなるのだろう。